

# DRAMA かながわ 53

神奈川県演劇連盟事務局：横浜市中区福富町西通り52（横浜演劇研究所内）Tel. 045-261-4866



## 新年を迎えて、こんな時代だからこそ

神奈川演劇連盟 理事長 横田和弘

新年 明けまして おめでとうございます。

昨年は 妙な年でした。前半は、どちらかと言えばいざなぎ景気を抜くとまで言われていたのが アメリカのサブプライム事件が 世界中にとぼちちりを与え 今や100年に一度の経済危機とか……。とんでもない話です。

果たして この先どうなるのか……石油の高騰が 嘘のように数ヶ月で解決したようにうまくは行きそうにありません……。

いきなり 暗い話題にしてしまいましたが だからといって決して演劇状況に危機感をなどは 言いません。書き出してふと 去年の念頭の話思い出したのです。

「演劇の 社会的責任」について 書いたような気がします。つまり こんな時代になったからこそ 演劇の社会的責任を より強く感じなくてはいけないのではと 思うのです。

ちょっと気障ですが 文化というのは 物質的な貧困を救う力

を持つと 信じるからです。こんなときにこそ 人間に必要な心の豊かさとか 安らぎを与えることができるのが 文化だと 信じるからです。

しかし 行政というのは 不況になれば まず 生き死にに関係ないからということで まず 文化の予算を削ります。情けない話です。

愚痴をいっても始まりませんので とにかくわれわれ演劇人はこんなときこそ 守りに入らずに ポジティブに 観客に力を与えられるような 暗いことを忘れさせるような良い芝居を創りたいものです。

連盟も こんなときだからこそ 新しい力を巻き込み 来るべき 活気溢れる状況を作るために ポジティブな一年になればと……願っています。

第6回神奈川県演劇連盟合同公演・劇団かに座第97回公演

「喜劇 極楽ホームへいらっしやい」作／池田政之 演出／田辺晴通

2008年12月19～21日 於：青少年センター・ホール

# 合同公演閉幕しました



第6回神奈川県演劇連盟合同公演 <'08年12月19日～21日。神奈川県立青少年センター・ホール「極楽ホームへいらっしやい」池田政之作>、いろいろな、そしてドキッとしたアクシデントもありましたが、多数の仲間の協力により無事閉幕致しました。これも劇団蒼生樹が後期の会場確保が出来なかったことから全面参加となったことが大きな力となり、スタッフ参加の劇団とともに名目だけでない実のある合同公演になったと自負しています。もし蒼生樹の全面参加がなかったらどうなったのだろうと、主体劇団として改めて思う次第です。

お陰様で観客も参加者全員が頑張ってくれた結果、「大入り袋」の1200人には達しませんでした当初目標の1000人を超え1081人でした。

県演連参加劇団の継続的公演は、地域演劇文化の日常化を高めるためとても大切ですが、これをアピールするための合同公演は欠かせないものと思っています。各劇団のメンバーが30人以上いれば自主公演と合同公演と2班に分けての活動も十分に可能と思うのですが、現実には厳しい状態が続いています。打上時の全員写真は40人以上が写っており、これが全員ウチのメンバーだったらなあーと、秘かに思ったりした次第です。

ともあれ、欲張った面もありましたが登場人物23人の稽古は大変でした。年末に向かってということもあったでしょうが、通し稽古に至るまでは全員揃ったことはなく（2007年6月当かに座において上演した同作者の「嫁も姑も皆幽霊」も22人でしたがトッ

プシーン以外は一般的な登場者数でした）、こんな出演者多数の舞台は二度と創りたくないと思ったこと何回もありました～代役の方がセリフを覚えちゃったりして～。でも――

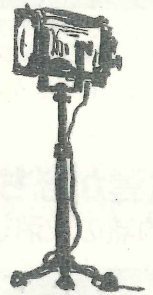
舞台評価については御観劇下された方にお任せするとして、アンケートによる御感想など277枚頂いておりますので興味のある方は是非目を通して下さい。全数収録ではないですが感想集も出ています。ドラマは家族・親子が主題となっているため御感想にはその方々の生活環境からのものも多くありました。“離れて暮らす母のことを思います” “自分の家族を見つめなおします” などなど……

スタッフも全て仲間内であり特に舞台装置、舞台装置についての御感想も何枚か頂いていますが全て手作りであり、また二度と作れない装置だなあーと思ったりもしていますが、これも狭い場所ながらも作る場所があるからこそであり、もし外部委託でしたら100万以上のものだと思います。なお蛇足かもしれませんが張り物と張り物の間は全て目貼りもしています。

いろいろのことはありましたが、当劇団かに座だけでは不可能な舞台であったことは事実ですし、受付のことをはじめ各劇団からの大勢の参加・協力があって無事閉幕することが出来たので、ここに改めて謝意を表し第7回へのパトタッチと致します。

県立青少年センター様大変お世話になりました。

(劇団かに座：田辺晴通)



## かに座・県演連合同公演「極楽ホームへいらっしゃい」をみて

「10名限定で、介護を必要としない元気な老人のみが入居できる老人ホーム」という、この芝居のチラシのキャッチフレーズは、少なくともこの特異な施設が現代の老人問題への強烈な逆説的風刺となるであろうことを期待させるし、しかも、元気な老人を集めれば、老人ホームと雖も殺人事件さえが起きる、とすればこのホームの住人にはどんな老人が集まり、どんな殺人事件を起こすのだろうか、そんな事件を起こすことになる人間関係や葛藤は、きっと今という時代を鋭くおかしく衝くという喜劇だと、勝手な想像をたくましくして客席の人となった。

しかし、その妄想は完全に裏切られた。ドラマは「元気な10名限定」というこのホームの建設の意味や目的を観客に納得させないうちに、不思議な人物たちの関係や不可解な殺人事件への展開がゆっくりと繰り広げられ、消化不良な結末で2時間15分の幕は降りた。何とも作者の意図の見えない、ただのおかしなお話にとどまっているこの戯曲に不満が残った。もっとも私自身この老人ホーム適格者だが、身体だけ元気でも頭はもはや呆けていて、芝居の流れや勘所の理解が出来ていないのかもしれない。作者はテレビや商業演劇に作品を書いている人のようだが、かに座としては、上演して好評を博した「嫁も姑も皆幽霊」に続く池田政之作品だから、今回の合同公演にふさわしい作品として選定したのである。

出演の皆さんのご健闘と、千人を越す集客を見せた制作力に敬意を表します。

〔劇評：横浜演劇研究所 飯田克衛〕

芝居を見終わって、「感想」を書けと宿題を出されていることもあり、今の芝居は何をいいたかったのだろうか？ と考えたのだが、どうにも焦点が絞れない。

「定年後の元気なうちだけ入れる老人ホーム」という、まあ架空の施設を運営するホームの園長宇都宮が、買収しようとしている隣の土地を、目出たく契約にまでこぎ着けたのが、めでたしめでたしだったのか？ それとも土地の売り主である地主佐渡喜三郎が視察入所したホームで殺され、にわか探偵ごっこが始まるのだが、その殺人事件が無事解決してめでたしめでたしなのか？ はてまた、その殺人事件を探偵小説作家志望の朝倉愛子が見事解き明かしたサスペンスの結果がめでたしめでたしなのか？ いやいやそんなことではなくて、朝倉愛子の愛息がこのホームの医師として赴任してくるのだが、息子の面倒をみるため入所した母親朝倉愛子の、事件にまつわる活躍の結果、離婚していた息子夫婦がよりを戻し新しい出発をするのがめでたしめでたしで、このドラマのメインテーマだったのか？ そんな個別のことではなくて、こういう架空の施設を設定することにより、そこに入ろうとする人、入れようとする家族、それぞれが抱えている複雑な人生模様を、殺人事件という究極の事件設定の中で考えてみるというのが、このドラマの最大の目的なのか？ など、いろいろ考えるのだが、どうにも焦点が定まらないのだ。

感想をまとめるに当たり、物語と事件をたどってみたが、おそらく現実には存在しない嘘っぽい施設設定と、そこに集う入所者たちの嘘っぽい会話からは、本物の感動は沸いてこない。客席にはそこそこの笑いがあり、殺人事件の解き明かしというサスペンスもどきの設定もあって、無事幕を下ろすのだが、見終わったあと何も残らないのは、私好みではないなあと思う。今の私は、生きていく上で必要なお芝居をみたいなあと思うのだ。

〔劇評：山本忠利〕

## 劇団きさく座

「身勝手な・・・姫」 作・演出/樋口晶子

2008年9月28日 於：平塚市中央公民館大ホール



なにごととも横浜が中心である神奈川の中にあって、西（平塚）と東（川崎）に遠く離れていることを言い訳にしておき、きさく座さんの公演を観るのは今回が初めてとなった。

平塚市の市民演劇フェスティバルに参加の形で、上演時間は約1時間とコンパクトなもの。劇団内の創作で、ピアノやギターの生演奏を舞台に取り入れたお芝居ができるのは、何ともうらやましい限りである。一ノ瀬役の高橋さんが

ピアノ伴奏で歌い始めた場面は、そのままシャンソンを1コーラス歌っても似合いそうな感じで、とても素敵でしたね。作品の内容も私の好きなタイプでとても楽しめた。少し残念なのは、1時間という制限に合わせてまとめられたためなのか、作品内容の膨らみとかドラマ性の面で少し物足りない感じがあり、涙を流して感動するというまでには至らなかった点と、演出面で少し気になったのは、下手寄りにいた役者がわざわざ舞台センターまで移動して正面きってセリフを言うというのはどうなのかな？と思った点である。

時間の都合で（その日のうちに出張で富山まで移動する予定だったのでm(\_ \_)m）、同じ市民演劇フェスティバルに出演した他の大学のお芝居を観られなかったのは残念であるが、平塚にある劇団として地元の活動に積極的に参加されているというのとても素晴らしいと思う。【劇評：劇団川崎演劇塾 村田好行】

## 風雲かぼちゃの馬車 【多目的プラザ連続公演①】

「灼熱の火消し Legend」 作/南瓜良成 演出/土井宏晃

2008年10月3～5日 於：青少年センター・多目的プラザ



今年私たちの劇団が担当した「芝居塾」を来年担当する劇団ということで、どんなお芝居をする人たちなんだろうとワクワクして観ました。

劇場に入ると舞台は二段になった段差があるだけでセットらしきものはほとんど無いシンプルなものでした。小道具が必要な部分はパントマイムや演技で表現し、演舞や殺陣、乱闘のシーンで広い舞台を存分に使うための舞台でした。

この物語は江戸時代の火消しの話なので、火事のシーンがたくさん出てきます。その火事を表現するため、激しい音楽に合わせて炎を表す赤い布を使った演舞が力強く格好良かったです。

この舞台では最後まで音楽が強い効果として使われていました。冒頭の火事場シーンで、火消しの頭領がまだ子供だった主人公の長兵衛を助けるシーンでは、舞台の高低差を使って助け出される

場面を表現していて、こんな演出もあるんだ！と印象に残っています。

悪い企みをする組織、組織に入りながらも復讐の機会を狙っている兄妹、江戸の街を守る火消し達…迫力ある殺陣や演舞は男性の多い劇団ならではの迫力でした。

また、火消しの仲間達の友情や師弟愛という人情的なエピソードもこの作品の魅力で、普段は照れてしまうような描写も、江戸時代という設定の雰囲気から違和感なく伝えようとしているのが分かりました。

過去と現在の出来事がリンクして、だんだん彼らの背景が分かっていく展開は、観ていて引き込まれました。

それぞれのキャラクターが分かりやすく、音楽に合わせてシーンを表現するところなどはちょっと漫画っぽいと思いましたが、勢いのある展開で楽しく観られました。

コミカルな部分ではクスッとさせてくれ、シリアスなシーンではほろりとさせてくれる。演劇の魅力が十分に感じられた舞台でした。

そして、最初の前説から最後のカーテンコールまで、観客を楽しませよう、自分たちが楽しもうというスタンスが伝わってきてとても楽しい芝居でした。【劇評：G/9-Project 豊瀬むつみ】

## 劇団麦の会 【多目的プラザ連続公演②】

「お勝手の姫」 作/小川未玲 演出/劇団麦の会

2008年10月25～26日 於：青少年センター・多目的プラザ



フレンチレストランを思わせるシックな舞台装置。ウエイトレスの洒落た案内で1時間半のコースが始まった。

「普通って何。」  
「一寸って何分。」  
見合い客のテンポの良いやりとりが続きドレスアップした淑女

とテキシード姿の紳士が登場。淑女は自分を姫様と思い込み紳士の方は、その召使い役を演じている。

紳士はジョルジュという哲学の教授でウイットの利いた難しい台詞を計算された演技でこなす。舞台が締まってきた。姫が自分

の見合いだと勘違いして見合い客と入り乱れチグハグな会話が始まる。テーブル間の台詞のやりとりが微妙にずれたのがとても惜しい。「それはなりません。」姫の凛とした演技も素晴らしいものがありました。最後に存在感のあるギャルソンが伝説の人であることが分かり姫と召使いの関係は記憶を失くした妻とそれを永く支えている夫であることが分る。重いテーマであるがオルゴールという小道具を使ってお互いへの尊敬と愛が垣間見える。エンディングの後黙々とテーブルをセットし直すギャルソン。もう一回見ないと分かり辛い展開も何かフランス映画を見た後のような感じだ。壊れたオルゴールが直って「シンガーリンガーリン」で始まるあの曲をこれから二人で楽しく聴いて過ごして欲しいと願わずにはいられなかった。

「イエスタデイ ワンス モア」・・・

【劇評：劇団かに座 川島一純】

## 劇団こゆるぎ座

相州鍔絵伝「龍」 作・演出／野村信太郎

2008年10月25～26日 於：小田原市民会館大ホール



西伊豆の松崎村出身で俗に「トカゲ」と呼ばれる左官職人の伊豆の長八こと「入江長八」が、小田原で狩野派の絵師、狩野弦象の孫娘「お龍」の導きで、絵に目覚め「漆喰絵」という独自の分野に辿り着く迄のフィク

ションが丁寧に描かれる。

広すぎる間口の舞台上に上手、下手、二場面を作り交互に展開

する、使われていない時は葎簀と土堀でキッチリ隠すのだが、演技エリアが限られて迫力不足の感は免れないし勿体ない。また舞台機構の故か前明かりが無く、舞台前面の芝居は役者の顔も動きも暗くて見えにくい。苦心して芝居には向いていない小屋を使っていることは理解出来るのですが、出来ればもう少し観客に優しいと有り難い。それと芝居を締めくくる長八の独白は、録音でなく出来れば（生）の役者の声で聞きたかった。

しかし、劇団創立63年の重みと実績が開場前に列をなして並んだ観客の多さと、ロビーに展示されたポスターの多さ、レパトリイの幅広さが物語っている。羨ましくも新人作家も得、若い世代をも交えて、地元小田原人の熱い応援に応えるべく益々の発展を期待します。

【劇評：劇団蒼生樹 勝碇若子】

## 劇団ひこばえ [多目的プラザ連続公演③]

「フラワー」(ミュージカル) 原作／アルゴミュージカル

脚本／劇団ひこばえ 演出／八角志歩・俵谷友子・村上芳信

2008年11月22～23日 於：青少年センター・多目的プラザ



初めての劇評と言うコトで一体何を書いてよいかわかっていませんので、勝手ながら私の感想をつらつらと書かせていただくこととします。

開演10分前に会場に到着すると既に座席は満席状態で、開演直前には立ち見の

お客さんまで出ており、「劇団ひこばえ」の人气が窺えると共に、これから繰り広げられるであろう「劇団ひこばえ」に何かしらの期待を抱いた。とはいえ、私は芝居とも合唱ともどちらとも付かないような、かつ非現実的なミュージカルと言うモノに良い印象が無く、これまでミュージカルを見たことが一切無かった。

初めてのミュージカル「フラワー」は不思議な花を咲かせるこ

とが出来た少女メゾーラを中心とし、「家族の大切さ」をテーマとした内容で、とても暖かい、優しい芝居だった。何より役者一人一人がとても楽しそうに感じられた事がとても良かった。

残念であったのは、座った座席が悪かったため地舞台での座った演技が、全く見えず何をやっているかが解らない事である。観客からの視点も気にすれば今後もっと発展すると感じた。

さて役者の個々の演技としては若いのが故に表現しきれていないところも確かにあったが、その分、真っ直ぐさがストレートに響き客席からすすり泣く声が聞こえて来るほどであり、ところどころで歌われた歌も気持ちがこもったもので非常に心地よいメロディであった。しかもその演出を行っているのが高校生と言うから驚きである。

現状でのひこばえを考えると今後がとても未恐ろしい、いやいや楽しみな劇団であるコトは間違いないだろう。

私自身も色々と学ぶことができる、とても楽しめる舞台でした。感謝感謝です。

【劇評：劇団蒼生樹 海老名】

## 劇団蒼い群

「光る時間」 作／渡辺えり子 演出／福本幸男

2008年11月8～9日 於：横須賀市立青少年会館



戦争によって命を亡くした人と、生き残った人々、それぞれの思い、慟哭のそれでも未来へと繋がる思いが、観る人の心を打つ見ごたえのある舞台だった。渡辺えり子の作品を見るのはこれが初めてであったが、なぜ今

彼女の作品が多くの人に支持されているのか、この公演を見て理解できた。

それは大上段に反戦や戦争反対を訴えるのではなく、もっとも身近な人々の中から、今ある日常の中から少しずつ胸の奥底に迫り、自分でも気づかないうちにその世界（劇空間）の住人にさせられるからだろう。

人生を振り返る長ゼリフが2、3あったのだが、これもとても自然に聞くことができた。多分役者自身の中に明確なイメージができておりそれがスムーズに観る者に伝わったのだろう。まるで座付き作家がいて、一人一人の個性に合わせて書かれたような役で、みんなピッタリそのキャストにはまっているのには驚いた。それぞれの個性が生かされており、役者の努力もあると思うが、それを引き出し、板に乗せた演出の力を感じた。何よりあまたある作品群の中で、今日的なこの脚本を選び挑戦したことに拍手を送りたい。

【劇評：京浜協同劇団 吉武寿美子】

## お詫び

前号（第52号）観劇記事中に劇団かに座公演（H20.6.20～22・かなっくホール）が掲載されませんでした。劇評担当には十分配慮してきておりますが、公演終了後に担当不能連絡があり、代わりの執筆者を見つけれず、大変失礼な結果を生じてしまいました。以後このような事態の起こらないよう十分配慮いたします。

## 劇団「横綱チュチュ」

「さくなくさ・さむなくさ」 作/菱倉あゆみ 演出/団のぼる

2008年11月22～23日 於：磯子区民文化センター・杉田劇場



今の時代の世相を現わしている芝居だと思いました。というのも登場人物に子供に良かれと思ひ、塾に行かそうとする親。塾に行きたがらない子供。親の介護をし、仕事の両立が難しくなる女性。また母親が離婚をし、

再婚相手を父親と認められない子供が出てきたからである。

初めのシーンでは子供達が森の中で将来の夢を語り生き生きしていたのが印象的で、緑が綺麗でした。子供達が大人になり、それぞれの悩みに直面した時言っていたセリフで『夢に向かって頑張れば何とかなると子供の頃思ってた』というのが印象的でした。大人になると子供の頃描いていた夢がその通りになる人は少数だと思った瞬間でした。

子供から見た気持ちと大人側から見た気持ちを芝居の中で表現して、子供も大人も楽しめる芝居でした。『温かな家庭ってなんだろうね?』というセリフがあったように人は何か家庭で問題が起きて悩み、時には人を傷つけながら自分自身に自問自答しながら、お互い人に支えられながら、生きていくんだなと思いました。題名になった『「さむなくさ」という草は毒を持っていて人は知らない間に人を傷つける事がある。さむなくさという草と一緒に』と言っていたのが印象的でした。3人のお婆さんモウ、ジキ、イクさんは名前も洒落ていて芝居も歌も良かったです。お婆さんが登場する事によって場の雰囲気も和み良かったです。電話の鳴ったシーンを幾つか出てきた家庭でのパターンで表現し、同じシーンを重ねてやったのが客を飽きさせなく良かったです。ラストを家族、友人と過ごす瞬間での終わり方が素敵でした。また生演奏が聴いていて心地良かったです。個々のキャラクターがそれぞれ活かされていて、その場に生きている感じがし、とても良かったです。親子で見た後も芝居について語れるというのは良いなと思う瞬間でした。

【劇評：劇団麦の会 佐藤麻美】

## 劇団河童座 【多目的プラザ連続公演④】

「藪の中」 原作/芥川龍之介 脚色・演出/横田和弘

2008年12月13～14日 於：青少年センター・多目的プラザ

芥川龍之介の有名な短編小説「藪の中」、これをいかに料理してくれるのか、期待して見に行った。土曜日昼の公演である。原作は殺人事件（と思われる）関係者達の様々な証言だけで構成されているので私はそのままを頭に描いていた。

会場に入ってみるとホール中央に、柱を背にした四角い舞台とその両側の花道というか、全て白い変型舞台、その周り四方に観客席。私は舞台を乗り越えて正面と思われる席に着いた。

現われたのは河童の音楽隊、ダンスチーム、そして河童の進行役兼裁判官。出演者はこの他に殺された男、夫の前で盗人に手ごめにされたその妻、盗人、巫女たちであった。原作ではもっと証言者が出てくる。巫女たちは殺されてしまった男を口寄せして証言させるためなので正味3人の証言者かつ容疑者。3人の当事者其々が自分が殺したと述べる。暗転、暗転で場面は変わり、役者の動きを黒子が繋ぐ。殺陣あり、踊りあり、黒子によるアクロバットありで飽きさせない。

河童座としては珍しい重い作品と演出家は言っておられたが、さすが長い歴史のある河童座、これを重いだけにせず、楽しめるものに仕上げてくれた。ダンスの意味はよくわからなかったし、男とその妻はなぜか人形のようにも見えたが、全体のテンポは良く、暗転下の動きはすばやく静かで全くわからず感心した。黒子たちは人を高く掲げるなど重労働をよくこなしたと思う。これだけ息を合わせるにはかなりの稽古量だったことだろう。

三人が言っていることは其々もっともそう思えて結局真犯人は分からず、つまり「藪の中」。演出の横田氏はプログラムで「電車の座席の譲り合いの小話からこの「藪の中」の舞台化を考えた」と書いておられたが、私はこの芝居を見て、近頃話題の、来年から始まるという裁判員制度のことを思った。

【劇評：劇団きさく座 佐々木】



## 劇団葡萄座

「べっかんこ鬼」 作/さねとうあきら 演出/山本伸二

2008年12月13～14日 於：テアトルフォンテ

先日劇団葡萄座の公演を見て、まず会場内に入ると客入れ曲が流れていました。この曲が素晴らしく、懐かしい感じを与えつつもどこか寂しげな感じを与えておりこの後の本編を予感させました。

幕開きでヒョットコの踊りがあったのですが全てにおいて裏と表があったように思います。ヒョットコの動きが非常にユーモアなのですが、その裏に隠されているであろうブラックさがメッセージ性を強く持っており、それだけで興味を惹かれるようなものに仕上がっていたと思います。

本編が始まり幕が開いた瞬間、舞台上には日本昔話の様なファンタジックでありダイナミックな装置が広がっていました。舞台上手の家や舞台下手の洞窟、そして舞台の中央にデカデカとそびえ立つ大樹、その作りこみには心を奪われました。出はけ部分もスロープや段差などを用いて出はけが単調にならないように工夫されており、これから起こるであろう劇に期待が持てました。

この劇ではナレーターの様な存在を風が担当しており三人のアンサンブルが三者三様の動きで風としての不思議な雰囲気を出しつつ物語の流れを説明するという面白い手法がとられていました。風の台詞の中には三人合わせて台詞を言うものがあったりしたので彼らも非常によく訓練されたのではないのでしょうか。

物語が最後にいくにつれ役者の人達が勢いをますので最後まであきずに見ることができました。

それとべっかんこ鬼が花を取って獵師に打ち抜かれるシーンなのですが、そのシーンの為だけにでっかい岩山を用意するという事にこの劇団の作品に対する意気込みを見たような気がしました。

【劇評：風雲かぼちゃの馬車 永尾陽奈】



## 演劇資料室だより

## 演劇資料室

## 演劇資料室の図書はどのように利用されているか

2005年7月～2008年11月に貸出図書1691冊を集計、調査した

演劇資料室が開設されてから約3年半に貸出を行った図書カードを集計してどのように利用されているのか調べた。

ジャンル(分類)別では圧倒的に戯曲(脚本)の割合が大きい。日本の戯曲1153冊(68.1%)日本の戯曲1153冊+外国の戯曲228冊+上演台本47冊+雑誌109冊=1537冊(90.9%)となる。雑誌の貸出はほとんど戯曲を読むのが目的と見られるのでこれを加えた。その他の分野は冊数は多くないがまんべんなく利用されている。

## ジャンル別貸出冊数 (05.07-08.11)

分類	冊数
C演劇論・評論	60
D演劇史(全て)	17
E舞台美術、舞台技術、演技術、劇場	33
Fアマチュア演劇	26
Gその他の演劇書(自伝、評伝、芸談、エッセー、写真集を含む)	18
H1上演台本(職業演劇)	41
H2上演台本(アマチュア演劇:創作脚本)	6
J日本の戯曲	1153
I外国の戯曲	228
雑誌(貸出用のみ)	109
合計	1691

将来、舞台技術者を目指す女子高校生が舞台美術、照明、音響などの技術書を次々に読破しているのが印象的で演劇資料室で学んだ知識を基礎にして一流の舞台技術者が輩出してほしいという願いである。

日本の戯曲の作者別の順位でみると1位井上ひさし70冊、2位永井愛54冊、3位成井豊+(真柴あずき)36冊が御三家、4位別役実33冊、5位鴻上尚史25冊、6位北村想24冊とつづく。かつては圧倒的な人気劇作家であった別役実と清水邦夫7位22冊に後退して人気作家の世代交代を実感させる。井上、永井両作家の作品はよみものとしても読みやすいことが人気の秘密かもしれない。

## 日本の戯曲・作者別貸出冊数 (上位10位10人)

作者名	冊数
井上ひさし	70
永井愛	54
成井豊 (十真柴あずき)	36
別役実	33
鴻上尚史	25
北村想	24
清水邦夫	22
つかこうへい	20
坂手洋二	16
斎藤 麟	14
合計	314

一方で日本の近代戯曲の古典ともいえる作家、岸田国士、真船豊、木下順二、小山祐士、田中千禾夫、久保田万太郎などの作品が読まれていてこの資料室の利用者の層の厚さを感じる。

日本の戯曲の作品別貸出順位では圧倒的な作品はない。井上、永井作品が頻出する。

## 日本の戯曲・作品別貸出冊数 (上位3位11作品)

書名(作者)	冊数
ら抜き殺意(永井愛)	8
熱海殺人事件(つかこうへい)	7
裏切り御免!(成井豊)	7
フロズンビーチ(クラリーノ・サンドロヴィッチ)	7
見よ 飛行機の高くとべるを(永井愛)	7
レンタルファミリー(砂本量)	7
萩家の三姉妹(永井愛)	6
トランス/1994年版+新版(鴻上尚史)	6
柳(町井陽子)	6
だるまさんがころんだ(坂手洋二)	6
新・明暗(永井愛)	6
合計	73

利用者では高校生、中学生の比率が高い(約7割)で上演作品を探すのが目的で訪れるので9月～11月、3月～5月に集中する。曜日では土曜、日曜で3校の演劇部生徒がはち合わせして狭い資料室が超満員になる瞬間もある。その高校生にご愛用の戯曲集が「高校演劇Selection1990-2005」(晩成書房刊)82冊である。このシリーズは毎年、高校演劇全国大会に出演の最優秀、優秀作品のほか高校の顧問教師、生徒の創作の秀作が収録されていて高校演劇の最新トレンドを探ることができる作品で高校生には圧倒的と言ってもよい人気がある。

「優秀新人戯曲集1996-2008」は日本劇作家協会がおこなう「優秀新人賞」選定で協会会員の一流劇作家による第一次、第二次、最終審査で選出された新人作家の作品を集めて刊行する、新人劇作家の登竜門ともいえる戯曲集であり利用者の人気が高い。同じような新人発掘の場として日本劇団協議会が毎年刊行をつづける「新鋭劇作集1-19」も魅力的な新人の作品が毎年掲載される。

中学生演劇では青雲書房刊の短編劇集「中学校の……」シリーズは中学校の怪談、四季、ときめき、出会いと別れのように劇集のネーミングのおもしろさと全国の中学校演劇の指導教師による作品が収録されていて好評。ネーミングの妙といえば青雲書房刊「新鮮いちご脚本集:1人から5人でできる vol.1-2」はフレッシュ好感度で利用者が多い。「あたし今日から魔女!?! えっ、うつそー!?! 大橋むつお戯曲集」青雲書房刊もかなりユニークなタイトルだ。

外国の戯曲の作家順位では1位シェイクスピア31冊でいろいろな作品が幅広く読まれている。2位ギイ・フォワシーの戯曲集は利用者が多く資料室に配架されている時間より貸出期間のほうが長いくらい人気の作家。おかげで本の摩耗がはげしくかなりお疲れ。外国の戯曲は228冊ではばひろい作家の作品が読まれていて順位をつけるのが難しい。

外国戯曲 作者別順位 (上位6位10人)

作者名	冊数
シェイクスピア、ウィリアム	42
フォウシー、ギイ	14
チャーホフ、アントン	14
ブレヒト、ベルトルト	8
ベケット、サミュエル	8
ウィリアムズ、テネシー	8
シャンリイ、ジョン、パトリック	6
ワイルダー、ゾーントン	5
ウエスカー、アーノルド	5
ミラー、アーサー	4
合計：114	

外国の戯曲・作品別貸出冊数 (上位5位11作品)

書名(作者)	冊数
ブレヒト戯曲全集1-5	9
じゃじゃ馬ならし(シェイクスピア)	8
お気に召すまま(シェイクスピア)	6
ギイ・フォウシー幕劇集	6
わが町(ワイルダー)	6
テネシー・ウィリアムズ幕劇集	5
三人姉妹(チャーホフ)	5
カナダ戯曲選集1-3(マレル、ジョン他)	5
お月様へようこそ(シャンリイ)	4
ゴドーを待ちながら(ベケット)	4
今日の英米演劇1	4
合計：62	

これまでカナダの劇作家の戯曲はわが国に紹介されることがなかったが吉原豊司によって代表的なカナダ現代戯曲が次々刊行されている。アメリカ演劇とはひと味ちがうメッセージ性と社会に対する告発の劇がカナダ演劇の特色になっている。ちなみに吉原豊司は住友商事の駐在員としてトロント、バンクーバーなどカナダ各都市で駐在員として活動のなかでカナダ演劇に魅了され戯曲の翻訳のみならず日加演劇交流のプロモーションを手がける。2000年に退社。アメリカ・カナダ演劇上演専門劇団「メープル・シアター」の創設に参画。

所蔵戯曲集：「カナダ戯曲選集(上)」1999年、「カナダ戯曲選集(下)」1999年、「サラ/ハイ・ライフ カナダ戯曲選集」2002年  
いずれも吉原豊司訳、彩流社刊行

2008年10月県立青少年センターのホームページに演劇資料室の所蔵図書目録が掲載されたことにより利用者が神奈川県下だけでなく全国各地から問い合わせ、貸出依頼が来るようになった。

いくつかの例を紹介すると山梨県北杜市の中学校演劇部の部員が顧問の先生に引率され一日がかりで脚本をよみ夕方には演目を

選定して帰ったケースがあります。

三重県いなべ市の小学校の先生から貸出依頼「きつねのおきゃくさまCD/楽譜付き(ミュージカル)」あまなくみこ原作、田島美津子脚色 晩成書房刊の貸出依頼がよせられた。この本の他図書館での所蔵を検索したところ公立図書館、大学図書館の横断検索でもいづれでも所蔵されておらず、唯一国立国会図書館のみ所蔵が確認された。公共の図書館・資料室では閲覧が困難な本といえる。

熊本県山都(やまと)町熊本県立矢部高校の先生で個人として16世紀から17世紀初頭の文化、政治を研究しているがトマス・キッド作「スペインの悲劇」の原書をあたってはよく判らない箇所があるのでこの戯曲を収載している「エリザベス朝演劇集」筑摩書房1974年刊を参照したいので遠方で恐縮だか貸出してほしいとの依頼。

地方の学校で(あるいは劇団で)上演脚本を探そうとしても書店にも公共図書館にもごくかぎられた最新刊の本があるだけで選択肢はきわめて限られてしまう。演劇資料室の役割はこのような需要に応えることにあるといえる。

演劇資料室が広く認知されることは喜ばしいことであるが貸出先がすべて善意のひとたちとは言い切れない。代替本が手当てできるとは限らず利用の拡大とともに管理が困難になる。

## 編集後記

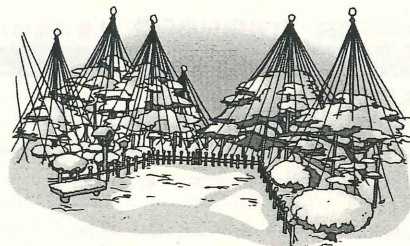
今回のドラマ神奈川も、テーマごとに原稿依頼をして、協力してくださる方のお力でできあがりしました。原稿担当のみなさまには、締切に追われ、再三の督促に答えてくださってありがとうございます。感謝しております。

私がドラマ神奈川を編集するようになり、1年がたちました。神奈川県演劇連盟の現状は、演劇博覧会、劇団の公演、合同公演、各施設との連携、行政との関係など他にも山のようにあり、「ドラマ神奈川」に掲載するには、紙面が足りないと感じております。

一度掲載しても、そのテーマを持続できないまま、次の号では、新たな事業を掲載するといった、簡潔した記事になっていると思います。もっと「ドラマ神奈川」のもつカラーはなに？ とつ

きつめられたらと感ずます。読み手の求める「紙面」はどんな形なのでしょうか？ドラマ神奈川にご意見、ご感想がありましたら、ご連絡いただけるとありがたいです。

(編集：安次嶺里絵子)



## 神奈川県演劇連盟加盟劇団の記録 (50音順)

- 京浜協同劇団
- 劇団蒼生樹
- 劇団蒼い群
- 劇団河童座
- 劇団かに座
- 劇団川崎演劇塾
- 劇団きさく座
- 劇団こゆるぎ座
- 劇団ひこばえ
- 劇団葡萄座
- 劇団麦の会
- 劇団横綱チュチュ
- 横浜小劇場
- 風雲かぼちゃの馬車
- ラ・テラ
- G/9-Project

神奈川県演劇連盟HP：<http://kenenren.web.infoseek.co.jp/2003/> 演劇資料室HP：<http://kenenren.web.infoseek.co.jp/shiryoushitsu/>